

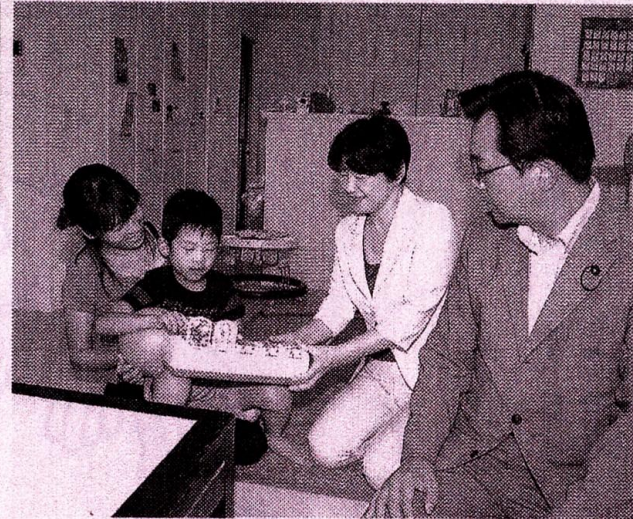
“見えない障がい”知って

栃木・小山市

公明議員の連携で実現 バッジの配布で周知



見えない障がいがあることを示すバッジ



塚田さん親子(左側)と懇談する(右から)西村県議、荒川市議

栃木県小山市おやまは現在、見た目では分かりにくい発達障がいなどがある子どもなどを対象に、「見えない障がい」があることを示すバッジと、子どもの障がいの状態などを書き込めるサポートファイルを無料で配布している。

これは、公明党の西村真治まこと県議と荒川美代子市議の取り組みが実ったもの。西村県議は、議員当選前の昨年3月、自閉症の子どもがいる塚田悠子さんから

相談を受けた。その中で、塚田さんは「発達障がいの子どもがいることを周りに知らせるほうが、親子の負担が減るのではないか」と訴えた。このことを受けて、西村県議

は荒川市議と連携。荒川市議が昨年6月の定例会で、民間団体が作成した「障がいを持っていきます」と書かれたワッペンを紹介し、市でも導入するよう提案した。

塚田さんは「もっと認知度が高まるよう、市内外に普及させてほしい」と話し、西村県議は「他の自治体でも広がるように努力したい」と語っている。